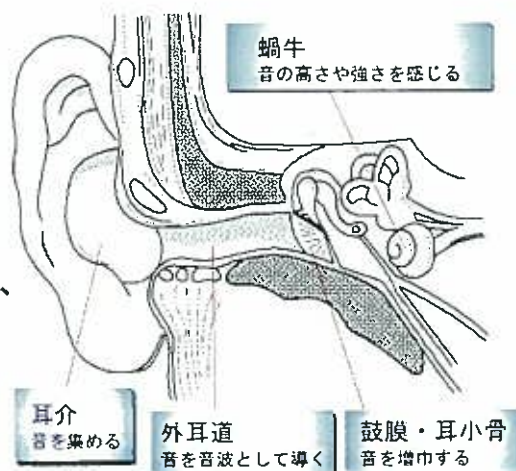


聴力検査

聴力検査とは

音は、外耳道を通して鼓膜に達し、鼓膜を振動させます。その振動が中耳にある耳小骨で増幅され、内耳にある蝸牛で電気信号に変換されます。その信号が神経を通して脳に伝わります（右図参照）。聴力検査は、さまざまな周波数の音の聞こえ具合を調べ、聞こえにくい場合は、その原因が外耳から中耳までにあるか（伝音性聴力障害）、内耳から脳までの間にあるか（感音性聴力障害）を調べる検査です。



検査方法

当会では「オーディオ検査」「聴力1次検査」「聴力2次検査」の3種類の検査を行っています。

ヘッドホンを用いて片耳ごとに聞き取って聴力を測定します。

「オーディオ検査」

1000Hz及び4000Hzの音を一定の強さで出しておき、これが聞こえるか否かを調べます。

「聴力1次検査」

1000Hz及び4000Hzの音で「きこえる」と「きこえない」とのさかい目の音の強さ（最小可聴域値）を調べます。

「聴力2次検査」

250Hzから8000Hzまでの音に対して最小可聴域値を測定し、聴力低下がないかを調べます。聴力低下がある場合は、耳周りの骨（頭の骨等）に専用の振動子をあてて、それぞれの音に対して最小可聴域を測定する骨導検査を行い、聴力低下が伝音性のものか、感音性のものかを調べます。

注意点

- ・音が聞こえたら、手元にあるスイッチを押してください。（聞こえなくなった場合は、必ずスイッチから指を離してください。）



一般財団法人 大阪府結核予防会
大阪病院

大阪病院は、患者さま中心のチーム医療を行い、健康を守ることで社会に奉仕します。